

# 港湾関係事業

近年、中国等からの輸入貨物の増大や高付加価値製品製造業等の国内・臨海部への回帰のほか、グローバルな産業のサプライチェーン構築の進捗により、中部地方の港湾においても、産業の国際競争力の維持・向上を図るための、国内外の物流を支える港湾機能の強化、物流の迅速化などの港湾サービスの提供が強く求められています。

一方、東海地域は、東海地震、東南海・南海地震の影響が特に甚大となることから、国民の生命・財産はもちろん、社会・経済活動を護るための総合的な防災対策の強化が、早急に求められています。

平成20年度港湾関係事業については、中部地方の港湾が果たしている役割と求められているニーズを踏まえ、“安全・安心の確保”、“国際競争力の強化”、“地域の活性化”、“良好な環境”といった現下の緊急課題に的確に対応するための港湾整備を重点的かつ効率的に進めます。

## 港湾関係事業のポイント

### I. 港湾・沿岸域における災害対応力強化と安全・安心の確保

- 東海・東南海地震などの大規模災害発生時における、地域の被害低減と早期復興を図るため、清水港、名古屋港、衣浦港等において港湾の防災機能の強化を推進します。
- 被災時の経済、社会活動の早期復興を図るため、被災後の復旧状況等に関する情報共有システム構築の検討など、被災直後から復興までの具体的プロセスを念頭に置いた「産業防災プロジェクト」に官民が連携して取り組みます。
- 既存港湾施設について、「維持管理計画」を策定し適切な維持管理に努めるとともに、既存ストックの有効活用を図るため、老朽化により機能低下した港湾施設の機能更新を行います。



耐震強化岸壁イメージ



老朽化した港湾施設

### II. 国際競争力の強化

- 伊勢湾における基幹コンテナ航路ネットワークを維持し、中部地方におけるものづくり産業の国際競争力の向上を図るため、名古屋港及び四日市港において、「伊勢湾スーパー中核港湾プロジェクト」を官民一体となった総合的な施策により強力に推進します。また、名古屋港において、コンテナ機能拡充に向けた取り組みを早急に進めるとともに、飛島ふ頭南地区においては、第2バースの平成20年度中の暫定供用を目指します。
- 駿河湾地域における地域産業の国際競争力を支えるため、中核国際港湾である清水港において国際海上コンテナターミナル（第2バース）の整備に着手し、基幹航路におけるゲートウェイとしての機能強化を図ります。



名古屋港飛島ふ頭南地区 国際海上コンテナターミナル



清水港新興津地区 国際海上コンテナターミナル

### Ⅲ. “みなと”を核とした地域の活性化

- ・ 港湾背後に立地する臨海部基幹産業を支えるばら積み貨物等の安定的かつ低廉な輸送を確保し、地域の経済と雇用を支援するため、田子の浦港等において多目的国際ターミナルの整備を推進します。
- ・ 三河港神野ふ頭において、港内の物流機能の再編により、外貿コンテナと完成自動車輸送の効率化に向けた取り組みを推進します。



田子の浦港 多目的国際ターミナル



三河港 神野ふ頭

### Ⅳ. 良好な環境、魅力ある暮らしを支える地域づくり

- ・ 三河湾において、水質改善や豊かな生態系を育む自然環境の形成を促すため覆砂及び干潟、浅場造成を継続的に推進します。また、これまでの実績を活かして伊勢湾、三河湾の再生を推進するために新たな干潟、覆砂材の検討に取り組みます。
- ・ 伊勢湾において良好な海洋環境を保全するため、清掃船の機能向上によるゴミ、油回収の効率化を図ります。
- ・ 人の移動や生活物資の輸送等により地域の活力を支えるとともに、みなとを活かした観光振興を図るため、鳥羽港、伊東港等において海上交通ターミナルの整備を推進します。
- ・ 「みなとオアシス」の認定や登録港への各種支援を通して、みなとを核とした住民参加型の地域活性化の取組みを支援することにより、地域の賑わい創出を図ります。



三河湾 シーブルー事業の推進



みなとオアシス（オアシスがまごおり）

## 新規事業箇所（直轄）

### しみずこう しんおきつちく 清水港 新興津地区 国際海上コンテナターミナル(水深 15m) 整備事業

#### 1. 事業箇所

清水港新興津地区（静岡県静岡市清水区）

#### 2. 整備概要

清水港においては、静岡県のものづくり産業を中心とする生産活動に伴う物流の活発化により、国際海上コンテナ取扱量は増加の一途であり、平成 18 年には同港で最高となる 57 万 T E U に達し、今後も順調な増加が見込まれております。

現在、清水港における大水深コンテナ岸壁は、新興津地区における水深 15m 岸壁 1 バースのみであることから、北米・欧州等の国際基幹航路の大型船は、入港が競合する曜日には、袖師地区の水深の浅い 12m 岸壁を利用せざるを得ず、貨物を満載にできないなど非効率な輸送を余儀なくされています。

このような非効率な港湾物流を改善するとともに、国内有数のものづくり産業の国際競争力の強化を図るため、清水港新興津地区国際海上コンテナターミナル第 2 バースを整備するものです。

整備内容：岸壁（水深 15m）350m、泊地（水深 15m）、防波堤、臨港道路、ふ頭用地、荷役機械

#### 3. 整備効果

- ・ 既存ターミナルと連続し、大水深国際海上コンテナターミナルを整備することにより、増加するコンテナ貨物やコンテナ船の大型化への対応が可能となり、非効率な物流体系の改善による物流コストの低減と駿河湾地域における地域産業の国際競争力の強化を図ります。
- ・ 震災時にも国際幹線物流機能を維持することにより、地域経済への影響を回避します。

